

トランスナショナルな子どもたちの教育を考える

2011年1月29日 大阪大学豊中キャンパス



1. 目指したこと

- ・すでに地域で実践されている様々な事例から、地域の人々ができることを考える
- ・グループワークを通して、どのようなネットワーク構築や協働ができるかを明確化する

2. 参加者 計46名(うち、トランスナショナルな子どもとして日本で教育を受けた経験を持つ参加者は12名)
教育関係者、行政関係者、大学関係者、実践支援者、大学院生、大学生、短期大学生、高校生等

3. 成果

- ・多様な立場の参加者が対話できた
- ・当事者の声が教育に携わる参加者の新しい気づきや力づけにつながった
- ・地域に目を向け、協働に取り組むべきであるという認識を新たにできた